

## 日本ハイパーサーミア学会第29回大会長 挨拶

この度、日本ハイパーサーミア学会第29回大会を、国際ハイパーサーミア腫瘍学会(ICH0 2012) 第11回大会との合同で、開催させていただくこととなり光栄に存じます。本大会は平成24年8月28日(火)から9月1日(土)の5日間、京都市東山区にありますハイアットリージェンシー京都を会場として開催されます。

日本におけるハイパーサーミア研究は、1978年にハイパーサーミア研究会として息吹をあげ、1984年には日本ハイパーサーミア学会が設立され、学会開催は本年が29回目となります。4年ごとに開催される国際学会の本邦における開催は、故菅原 努先生のもとで開催された1988年以来であり、24年ぶりとなります。この四半世紀にハイパーサーミアは合理的な癌治療法として期待され、基礎研究・臨床応用ともに大きな進歩を遂げて参りました。一方で、癌治療の多様化や他の治療法の進歩もあり、ハイパーサーミアのさらなる発展のための戦略や次世代への継承を考慮する時期ともなりました。今大会の英語でのテーマに、副題に From Bench and Bedside と並列に記載させていただいたのは、基礎と臨床から両者を融合するブレイクスルーを本大会の発表に期待してのことです。

今回は国際学会との合同大会でもあり、12テーマのシンポジウム、モーニングレチャーに加えて、基礎、臨床での総括を行うサマリーセッション等を予定しています。一般発表は、英語による短い口演の後に、夕方、リラックスした雰囲気の中ポスター前で、自由にご議論いただく形式を取っており、若手優秀賞を設けております。尚、教育講演は、最終日に会場を変えて市民公開講座を開催し、これを充てることになりました。

ハイパーサーミアはがん治療のための温熱療法としてスタートしましたが、その守備範囲は年々広がっており、本学会に際しても、欧米からは数多くの要望テーマをいただきました。今回、日程の関係ですべてを取り入れることはできませんでしたが、それだけ、期待も大きいことであり、これに応えるために多数の会員の先生方のご発表ならびにご参加をよろしくお願い申し上げます。尚、本大会の実施にあたっては、国際学会との合同でもあり、国際学会大会長の吉川敏一先生、事務局長の古倉 聡先生、合同学会長の大西武雄先生のご支援に感謝申し上げます。

富山大学大学院医学薬学研究部放射線基礎医学講座 教授  
近藤 隆

